（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○事業所名 | 運動療育型児童デイスーパーキッズ宮ノ内南校 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和7年10月22日 | ～ | 令和7年11月24日 | |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 46 | （回答者数） | 43 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和7年10月22日 | ～ | 令和7年11月24日 | |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 5 | （回答者数） | 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年11月24日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事業所の活動プログラムの内容が多種多様で、社会性、協調性を高め生きていく力を育むことを目的とした内容に設定している | 集団活動の中で、一斉指示を通して何をするのか、一番大事なことは何かを考えて行動するイベント内容に設定している。外出イベントを増やし、行動範囲を広げることで公共のルールが身につくよう意識している | 日々の運動療育のメニューに＋αを付け加え、応用力を活かしたイベントを行い、考える力や友達と協力したり話し合う機会を増やしてコミュニケーション能力が養われる活動内容を増やす。 |
| 2 | 運動療育を通して、運動能力が向上を体感することで本人の自信につながり、球技や個人競技等に対応できる運動機能が身についている。 | 基本動作が身につくよう徹底的に繰り返し練習し、個人のつまずきやペースに合わせた指導で時に寄り添いながら高い完成度を目標としている。 | スポーツテストの結果をもとに長所や短所を見極め、成長過程と共に運動能力の向上に努める<br>スーパーキッズフェスタを通してこれまでの成果を保護者に体感してもらえる機会をつくる |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 3 | 日ごろから子どもとの状況に向き合い保護者に伝わりやすい支援を実行している | LINEでの連絡帳や動画や送迎時での保護者との会話、個別の面談などを通して普段から保護者にも寄り添った対応を職員一人一人が意識している | 少しでも早く保護者の意向に答えられるよう、職員一人一人が情報の共有を強化すると共に、発達障害の知識の向上を図る |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 放課後児童クラブや児童館などの他事業所との地域交流の場がない | 放課後児童クラブや児童館との交流を希望されている保護者が今のところいないので、必要とはしていない。地域交流の場はすでに南陽高校のマジックショー、木津高校水族館、警察署職員による交通安全教室、消防署見学などを取り組みを実施済である。 | 要望があれば検討する |
| 2 | 父母の会の活動の支援や保護者会の開催などの保護者間の連携を支援できていない | 保護者間でも必要としていない家庭もあり、賛否両論である | 保護者のニーズに応じで参加できる企画を検討していく。 |
| 3 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアルの周知徹底と発生を想定した訓練の実施が保護者に浸透していない | 令和６年１１月にオフィシャルLINEにて告知や訓練の様子を配信しているがまだまだ知らない家庭が多い | 来所児の家庭のみだけで一時期のみに固定せず、時期を分散させてより多くの来所児が訓練の機会に携われるようにする |